

講義コード	D360100101	科目ナンバリング	136F202	単位	2
講義名	博士論文指導(フランス文学専攻)				
英文科目名	Supervision for Doctoral Thesis				
担当者名	鈴木 雅生				
開設部門	フランス文学専攻	配当年次	D 1年～3年		
時間割	集中(通年) その他 集中講義				

授業概要

博士論文を遅滞なく完成させるために、資料収集の方法、論文の構成の仕方、具体的なテーマの選び方などを指導する。

到達目標

博士論文を完成できる。

授業内容

実施回	内容
第1回	博士論文の書き方、概論
第2回	博士論文の書き方を口頭で指導
第3回	博士論文の書き方を口頭で指導
第4回	博士論文の書き方を口頭で指導
第5回	博士論文の書き方を口頭で指導
第6回	博士論文の書き方を口頭で指導
第7回	博士論文の書き方を口頭で指導
第8回	博士論文の書き方を口頭で指導
第9回	博士論文の書き方を口頭で指導
第10回	博士論文の書き方を口頭で指導
第11回	博士論文の書き方を口頭で指導
第12回	博士論文の書き方を口頭で指導
第13回	前期のまとめ
第14回	博士論文の書き方を口頭で指導
第15回	博士論文の書き方を口頭で指導
第16回	博士論文の書き方を口頭で指導
第17回	博士論文の書き方を口頭で指導
第18回	博士論文の書き方を口頭で指導
第19回	博士論文の書き方を口頭で指導
第20回	博士論文の書き方を口頭で指導
第21回	博士論文の書き方を口頭で指導
第22回	博士論文の書き方を口頭で指導
第23回	博士論文の書き方を口頭で指導
第24回	博士論文の書き方を口頭で指導
第25回	博士論文の書き方を口頭で指導
第26回	年間のまとめ

授業方法

原則対面による質疑応答

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前に自分が抱えている問題を整理しておくこと

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		

中間テスト

レポート	70 %	
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	30 %	
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

面談によるフィードバック

講義コード	M360100101	科目ナンバリング	136F201	単位	2
講義名	修士論文指導(フランス文学専攻)				
英文科目名	Supervision for Master's Thesis				
担当者名	鈴木 雅生				
開設部門	フランス文学専攻	配当年次	M 1年～2年		
時間割	集中(通年) その他 集中講義				

授業概要

修士論文を遅滞なく完成させるために、資料収集の方法、論文の構成の仕方、具体的なテーマの選び方などを指導する。

到達目標

修士論文を完成できる。

授業内容

実施回	内容
第1回	博士論文の書き方を口頭で指導
第2回	博士論文の書き方を口頭で指導
第3回	博士論文の書き方を口頭で指導
第4回	博士論文の書き方を口頭で指導
第5回	中間発表の準備
第6回	博士論文の書き方を口頭で指導
第7回	博士論文の書き方を口頭で指導
第8回	博士論文の書き方を口頭で指導
第9回	博士論文の書き方を口頭で指導
第10回	博士論文の書き方を口頭で指導
第11回	博士論文の書き方を口頭で指導
第12回	博士論文の書き方を口頭で指導
第13回	前期のまとめ
第14回	博士論文の書き方を口頭で指導
第15回	博士論文の書き方を口頭で指導
第16回	博士論文の書き方を口頭で指導
第17回	博士論文の書き方を口頭で指導
第18回	博士論文の書き方を口頭で指導
第19回	博士論文の書き方を口頭で指導
第20回	博士論文の書き方を口頭で指導
第21回	博士論文の書き方を口頭で指導
第22回	博士論文の書き方を口頭で指導
第23回	博士論文の書き方を口頭で指導
第24回	博士論文の書き方を口頭で指導
第25回	博士論文の書き方を口頭で指導
第26回	年間のまとめ

授業方法

対面による質疑応答、場合によりZoomによるオンライン面談

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前に自分が抱えている問題を整理しておくこと(一時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		

中間テスト

レポート	70 %	
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	30 %	
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

面談によるフィードバック

講義コード	M360200101	科目ナンバリング	136F101	単位	4
講義名	フランス語学特殊研究(大学院)				
副題	フランス語の歴史的・地域的な広がり				
英文科目名	Studies in the French Language				
担当者名	松村 剛				
開設部門	フランス文学専攻	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年		
時間割	通年 月曜日 3時限 仏文院生室				

授業概要

フランス語の歴史的、地域的な広がり多様性を理解していただくことを目的とします。そのために必要な道具を紹介し、それらを批判的に活用する練習をしていただきます。論文作成などのために知っておくべき基本的な研究倫理についても学んでいただきます。

到達目標

履修者各自の研究対象と関連させながら、フランス語の歴史的、地域的な広がり多様性を理解していただくことを目標とします。

授業内容

実施回	内容
第1回	Le Petit Robert の特徴と問題点
第2回	Le Petit Robert の批判的読解演習
第3回	Le Trésor de la langue française の特徴と問題点
第4回	Le Trésor de la langue française の批判的読解演習
第5回	Dictionnaire des onomatopées の特徴と問題点
第6回	Dictionnaire des onomatopées の批判的読解演習
第7回	Dictionnaire des jurons の特徴と問題点
第8回	Dictionnaire des jurons の批判的読解演習
第9回	Dictionnaire des régionalismes de France の特徴と問題点
第10回	Dictionnaire des régionalismes de France の批判的読解演習
第11回	Französisches Etymologisches Wörterbuch の特徴と問題点
第12回	Französisches Etymologisches Wörterbuch の批判的読解演習
第13回	Le Bon Usage の特徴と問題点
第14回	Le Bon Usage の批判的読解演習
第15回	Littré の特徴と問題点
第16回	Littré の批判的読解演習
第17回	Furetière の特徴と問題点
第18回	Furetière の批判的読解演習
第19回	Huguet の特徴と問題点
第20回	Huguet の批判的読解演習
第21回	Dictionnaire du Moyen Français の特徴と問題点
第22回	Dictionnaire du Moyen Français の批判的読解演習
第23回	Godefroy の特徴と問題点
第24回	Godefroy の批判的読解演習
第25回	Tobler-Lommatzsch の特徴と問題点
第26回	Tobler-Lommatzsch の批判的読解演習

授業方法

講義、演習。遠隔授業の場合は Zoom を使用した同時配信型。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前に指示した箇所を読んでおくこと(約2時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	20 %	
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	80 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):80%(積極的に授業に参加すること。) レポート:20%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

学生のレポートその他は授業内でコメントし、授業の内容に反映させる。

教科書コメント

授業時に指示する。

参考文献コメント

授業時に指示する。

履修上の注意

履修者数制限あり。
第1回の授業に必ず出席のこと。

講義コード	M360202101	科目ナンバリング	136F103	単位	4
講義名	◆フランス文学特殊研究(学部:フランス語圏文化演習(文学・思想))(大学院)				
副題	ル・クレジオ研究				
英文科目名	Studies in French Literature				
担当者名	鈴木 雅生				
開設部門	フランス文学専攻	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年		
時間割	通年 木曜日 4時限 仏文院生室				

授業概要

現代フランス文学を代表するル・クレジオの『Haï(邦題:悪魔祓い)』(1971年)を読む。西欧世界とはまったく異質な輪郭と色彩をもつインディオの世界認識のありかたを称揚し、ヨーロッパ文明とインディオ社会のヴィジョンの対立をストレートに描くこの作品は、ル・クレジオの思想と文学において大きな転回点となった作品である。これを題材として、ル・クレジオという作家の世界観や文学の特徴を考えていきたい。

到達目標

フランス語の高度なテキストを読み、その内容を文化的歴史的背景を含めて理解するとともに、自らの言葉で解釈・分析してそれを説得的に他者に伝えることができるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス
第2回	作家および作品についての解説
第3回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(1)
第4回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(2)
第5回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(3)
第6回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(4)
第7回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(5)
第8回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(6)
第9回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(7)
第10回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(8)
第11回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(9)
第12回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(10)
第13回	前期のまとめ
第14回	後期ガイダンス
第15回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(11)
第16回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(12)
第17回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(13)
第18回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(14)
第19回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(15)
第20回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(16)
第21回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(17)
第22回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(18)
第23回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(19)
第24回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(20)
第25回	後期のまとめ
第26回	全体のまとめ

授業計画コメント

詳しい授業計画は初回授業時に配布する。

授業方法

演習形式の授業であるので、大筋を説明した後は、各自にテキストを分担してもらいながら授業を進める。単なる訳読ではなく、担当した箇所の分析やコメントを求めるため、必要に応じてテキスト外の資料も参照することとなるだろう。最終的には各々の関心のある観点からレポートをまとめてもらう。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

準備学習(予習・復習)

自分の担当範囲はもちろん、各回で進むテキストの部分を下調べすること(2-3時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	60 %	
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	40 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

上記の割合はあくまで目安である。

この授業は、学部生・院生が履修できるが、大学院生はより高度な学修と成果が求められることは言うまでもない。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

提出されたレポートについては、コメントを付与のうえ返却する。

教科書

Haï: Sentiers de la création, Le Clézio, Skira, 1971

教科書コメント

原書は絶版のため、プリントを配布する。

参考文献

悪魔祓い: 岩波文庫, ル・クレジオ, 岩波書店, 2010, 978-4003751084

講義コード	M360300101	科目ナンバリング	136F104	単位	4
講義名	◆フランス語学演習(学部:フランス語圏文化演習(言語・翻訳))(大学院)				
副題	Production écrite				
英文科目名	Seminar in the French Language				
担当者名	DERIBLE, Alberic Dany Ser				
開設部門	フランス文学専攻	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年		
時間割	通年 火曜日 4時限 中央-506				

授業概要

Chaque séance de cours se déroulera en trois temps. Les étudiants mèneront tout d'abord une analyse des caractéristiques d'un genre particulier d'écrit et s'exerceront ensuite à manipuler les outils linguistiques qui lui sont spécifiques. Dans un troisième et dernier temps, ils produiront, avec l'aide de l'enseignant et sur le modèle du texte analysé en première partie, un exemple de cet écrit. Seront abordés au cours du semestre divers média tels que : la presse, la littérature et la correspondance.

到達目標

Se familiariser avec les différents genres d'écrit. Analyser les structures spécifiques à chaque type et s'y conformer lors de la production, tant au niveau de la forme (vocabulaire thématique et structures grammaticales) que dans le fond (les actes de parole exprimés). Les étudiants s'essaieront ainsi aux techniques de l'écriture journalistique, littéraire et de la correspondance.

授業内容

実施回	内容
第1回	L'ARTICLE DE PRESSE
第2回	Présentation des concepts opératoires pour l'analyse de texte
第3回	Le texte argumentatif
第4回	Les connecteurs logiques
第5回	La structure d'un article de presse
第6回	Le courrier des lecteurs
第7回	L'expression de l'opinion, le subjonctif
第8回	Un article pour le journal de l'université
第9回	Répondre à un éditorial, faire un commentaire sur un sujet d'actualité
第10回	Évaluation 1, Production écrite : donner son opinion sur un forum en ligne
第11回	LE ROMAN
第12回	Le synopsis
第13回	Les caractéristiques du roman
第14回	L'incipit
第15回	La concordance des temps
第16回	L'extrait de roman
第17回	Le passé simple
第18回	Le discours rapporté
第19回	Les règles de la ponctuation française
第20回	Évaluation 2 : présenter son roman préféré (synopsis et opinion)
第21回	LES AUTRES GENRES D'ECRIT (LE RECIT AUTOBIOGRAPHIQUE, LA LETTRE, LE MAIL)
第22回	Le souvenir
第23回	Le journal de bord, le récit d'aventure
第24回	L'imparfait et le passé composé
第25回	Les formules de politesse de début et de fin de correspondance
第26回	Le mail : accepter l'invitation d'un(e) ami(e), demander des informations sur une sortie

授業方法

Les classes se dérouleront en présentiel. Après une première partie consacrée à l'analyse des différents types de texte, les étudiants seront guidés dans leur production personnelle d'un type particulier d'écrit.

使用言語

日本語・英語

準備学習(予習・復習)

Aucune préparation préalable n'est attendue des étudiants suivant ce cours, seules l'assiduité et la participation en classe sont obligatoires.

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト	90 %	3 évaluations par semestre de cours
レポート		
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	10 %	Assiduité et participation en classe
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

L'évaluation portera principalement sur la production individuelle de trois types d'écrit : un texte argumentatif sur un sujet de société, le résumé et l'analyse littéraire et la correspondance officielle.

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

L'enseignant donnera un feed-back général sur les productions écrites des étudiants à chaque séance et donnera des conseils individuels selon les besoins et les problèmes de chacun.

教科書コメント

Aucun manuel ne sera utilisé dans cette classe. L'enseignant fournira pour chaque séance une fiche de travail idoine.

履修上の注意

履修制限あり(25名)。/第1回目の授業に必ず出席すること。

講義コード	M360300102	科目ナンバリング	136F104	単位	4
講義名	◆フランス語学演習(学部:フランス語圏文化演習(言語・翻訳))(大学院)				
副題	日常言語について考える				
英文科目名	Seminar in the French Language				
担当者名	中尾 和美				
開設部門	フランス文学専攻	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年		
時間割	通年 火曜日 3時限 西2-405				

授業概要

言葉は力である。同じ伝達内容であっても、言葉の使われ方によって相手の反応も異なる。この授業では、主として語用論的な視点から、日常を取り巻くフランス語の言語表現の考察を深めたい。具体的には、日常的に使われる言語形式や表現を取り上げ、言葉の意味を文脈、発話状況から考える。また、フランス語学の短い論文を読むことで、言語学の第一歩となるような視点も養う。また、定期的に参加者の発表を予定し、それがレポート執筆につながるように指導する。学部と大学院の乗り合わせの授業なので、参加者の興味やレベルに応じて臨機応変に対応する予定である。

到達目標

フランス語の様々な表現を習得すること、言語分析を行うこと、ことば一般に対する興味を深めることを目指す。

授業内容

実施回	内容
第1回	授業の概要の説明
第2回	疑問文の形式
第3回	疑問文と言語行為
第4回	談話における疑問文
第5回	命令文の形式
第6回	命令文と言語行為
第7回	談話における命令文
第8回	人称代名詞 je 人称代名詞je
第9回	人称代名詞tu, vous
第10回	人称代名詞nous, on
第11回	授業発表
第12回	授業発表
第13回	授業発表
第14回	多義語、日本語との比較(1)
第15回	多義語、日本語との比較(2)
第16回	多義語、日本語との比較(3)
第17回	多義語とレトリック(1)
第18回	多義語とレトリック(2)
第19回	談話における多義語(1)
第20回	談話における多義語(2)
第21回	言葉の意味と発話状況(1)
第22回	言葉の意味と発話状況(2)
第23回	言葉の意味と発話状況(3)
第24回	授業発表
第25回	授業発表
第26回	授業発表

授業方法

フランス語について講義をすると同時に、言語学の論文を抜粋で読み、議論していく演習方式。参加者の発表も適宜行う。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

論文講読では、担当箇所を調べるだけでなく、全体を読んで内容を理解するようにしておくこと。授業発表では、他の参加者の発表について活発に議論することが求められる。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):(テキストの予習、授業における参画、発表。)単なる出席ではなく、授業への参加態度も成績評価の対象とする。

この授業は、学部生・院生が履修できるが、大学院生はより高度な学修と成果が求められる。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業発表をレポート執筆に繋げる。

教科書コメント

授業で講読するテキストは、授業中に指示する。

参考文献

フランス語の発想,春木仁孝・岩男考哲,くろしお出版,2021

Les actes de langage dans le discours,C. Kerbrat-Orecchioni,Armand Colin,2008

Politeness Some Universals In Language Usage ,Brown & Levinson,Cambridge University Press,1987

Merci professeur,B.Cerquiglini,Bayard,2008

L'implication du récepteur dans les énoncés de l'espace public,F.Dhorne,Peter Lang,2024

参考文献コメント

必要に応じて授業中に指示する。

履修上の注意

履修者制限あり(25名)。第1回目の授業に必ず出席すること

講義コード	M360301101	科目ナンバリング	136F105	単位	4
講義名	◆フランス文学演習(学部:フランス語圏文化演習(文学・思想))(大学院)				
副題	フランス近代文学読解				
英文科目名	Seminar in French Literature				
担当者名	田上 竜也				
開設部門	フランス文学専攻	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年		
時間割	通年 水曜日 4時限 仏文院生室				

授業概要

フランス現代作品の読解。テキストは履修者の関心に従い、相談の上決定する。フランス現代文学と現代思想の接点に位置するような作品をひとつないし複数選んで読む予定。

到達目標

作品の正確な読解につとめるとともに、さまざまな解釈の広がり把握します。

授業内容

実施回	内容
第1回	授業概要の説明、テキストの選択
第2回	テキスト訳読
第3回	テキスト訳読
第4回	テキスト訳読
第5回	テキスト訳読
第6回	テキスト訳読
第7回	テキスト訳読
第8回	テキスト訳読
第9回	テキスト訳読
第10回	テキスト訳読
第11回	テキスト訳読
第12回	テキスト訳読
第13回	前期まとめ
第14回	テキスト訳読
第15回	テキスト訳読
第16回	テキスト訳読
第17回	テキスト訳読
第18回	テキスト訳読
第19回	テキスト訳読
第20回	テキスト訳読
第21回	テキスト訳読
第22回	テキスト訳読
第23回	テキスト訳読
第24回	テキスト訳読
第25回	テキスト訳読
第26回	後期まとめ

授業計画コメント

大学院生及び、卒業演習履修者を主な対象とする。それ以外の学部生も履修可能だが、多すぎる場合は選抜する可能性あり。

授業方法

原則対面による演習形式だが、場合によりZoom使用。

使用言語

日本語・英語

準備学習(予習・復習)

各自毎回数ページを読んでくること。とくに指名された箇所は、各版の注など読み込み、どのような解釈が可能か説明できるようにする。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	30 %	
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	70 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

能動的クラス参加、グループ作業の成果等)70% 聴講態度重視。居眠り、私語、飲食(ガム、飴も含む)、無断退出(必要な場合には必ず申告すること)、メールなどは大きな減点対象となります。レポート30%。
この授業は、学部生と院生が履修できるが、大学院生にはより高度な学修と成果が求められる。

この授業は、学部生・院生が履修できるが、大学院生はより高度な学修と成果が求められることは言うまでもない。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業内の発表内容をまとめたもの(配布資料含む)をレポートとする。

教科書コメント

テキストはコピー配布。

履修上の注意

履修者数制限あり。 / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

主にメールを利用。

講義コード	M360301102	科目ナンバリング	136F105	単位	4
講義名	フランス文学演習(大学院)				
英文科目名	Seminar in French Literature				
担当者名	BIZET, Francois Henri				
開設部門	フランス文学専攻	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年		
時間割	通年 水曜日 3時限 西1-103				

授業概要

Autour de Roland Barthes

到達目標

Ce cours a pour objectif de lire quelques livres et articles importants de Roland Barthes (Le Degré zéro de l'écriture, Mythologies, études diverses sur le Nouveau Roman et le théâtre, etc), ainsi qu'un certain nombre de textes littéraires qui leur sont associés (Perec, Camus, Blanchot, Butor, Beckett etc).

授業内容

実施回	内容
-----	----

第1回	Introduction générale
第2回	Le Degré zéro de l'écriture (1)
第3回	Le Degré zéro de l'écriture (2)
第4回	Albert Camus
第5回	Albert Camus
第6回	Le Degré zéro de l'écriture (3)
第7回	Le Degré zéro de l'écriture (4)
第8回	Maurice Blanchot (1)
第9回	Maurice Blanchot (2)
第10回	Mythologies (1)
第11回	Mythologies (2)
第12回	Georges Perec (1)
第13回	Georges Perec (2)
第14回	Mythologies (3), "Romans et enfants"
第15回	Mythologies (4), "Romans et enfants"
第16回	Barthes sur Beckett
第17回	En attendant Godot (1)
第18回	En attendant Godot (2)
第19回	En attendant Godot (3)
第20回	Barthes sur Butor, "Littérature et discontinu" (1)
第21回	Barthes sur Butor, "Littérature et discontinu" (2)
第22回	Barthes sur Butor, "Littérature et discontinu" (3)
第23回	Barthes sur Proust, "Proust et les noms" (1)
第24回	Barthes sur Proust, "Proust et les noms" (2)
第25回	Barthes sur Proust, "Proust et les noms" (3)
第26回	Conclusion

授業方法

Le cours est intégralement donné en français. Les textes sont lus dans leur version originale. Les étudiants peuvent bien entendu avoir recours aux traductions existantes.

使用言語

英語

準備学習(予習・復習)

Les textes fournis doivent être lus attentivement par les étudiants avant chaque séance.

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		

学期末試験(第1学期)

学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	80 %	
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	20 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

Une présence attentive et une participation orale en classe sont attendues des étudiants.

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

Néant

教科書コメント

Néant

参考文献コメント

Néant

履修上の注意

Néant

その他

Néant

講義コード	M360302101	科目ナンバリング	136F106	単位	4
講義名	◆フランス演劇演習(学部:フランス語圏文化演習(舞台・映像))(大学院)				
副題	Tragédies bibliques (Suite)				
英文科目名	Seminar in French Drama				
担当者名	MARE, Thierry				
開設部門	フランス文学専攻	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年		
時間割	通年 木曜日 3時限 西1-210				

授業概要

Après 『Abraham sacrificant』 de Théodore de Bèze (1550), que nous avons lu ensemble, nous poursuivrons la lecture commencée des 『Juifves』 (1583) de Robert Garnier, avant de nous attaquer aux deux pièces écrites par Racine pour le Collège des Jeunes Filles de Saint-Cyr, en réponse à une commande de Mme de Maintenon : 『Esther』 (1689) et 『Athalie』 (1691), afin de compléter notre tour d'horizon des tragédies composées sur le modèle classique (c'est-à-dire inspiré du théâtre grec et des idées d'Aristote) et tirant leur sujet de la Bible.

到達目標

Notre étude portera à la fois sur des questions de langue, de dramaturgie et de versification. Contrairement à l'usage établi au XVII^{ème} siècle, ces pièces ont en commun d'intercaler les scènes dramatiques en alexandrins par des chœurs lyriques en formes strophiques. Je m'efforcerai à chaque séance de régler les problèmes linguistiques que le moyen français (pour Garnier) et même par la langue classique pourraient poser à des étudiants exclusivement habitués aux usages contemporains.

授業内容

実施回	内容
-----	----

- | | |
|------|--|
| 第1回 | Lecture et commentaire des 『Juifves』 (1) |
| 第2回 | Lecture et commentaire des 『Juifves』 (2) |
| 第3回 | Lecture et commentaire des 『Juifves』 (3) |
| 第4回 | Lecture et commentaire des 『Juifves』 (4) |
| 第5回 | Lecture et commentaire des 『Juifves』 (5) |
| 第6回 | Lecture et commentaire des 『Juifves』 (6) |
| 第7回 | Lecture et commentaire des 『Juifves』 (7) |
| 第8回 | Lecture et commentaire d'『Esther』 (1) |
| 第9回 | Lecture et commentaire d'『Esther』 (2) |
| 第10回 | Lecture et commentaire d'『Esther』 (3) |
| 第11回 | Lecture et commentaire d'『Esther』 (4) |
| 第12回 | Lecture et commentaire d'『Esther』 (5) |
| 第13回 | Lecture et commentaire d'『Esther』 (6) |
| 第14回 | Lecture et commentaire d'『Esther』 (7) |
| 第15回 | Lecture et commentaire d'『Esther』 (8) |
| 第16回 | Lecture et commentaire d'『Athalie』 (1) |
| 第17回 | Lecture et commentaire d'『Athalie』 (2) |
| 第18回 | Lecture et commentaire d'『Athalie』 (3) |
| 第19回 | Lecture et commentaire d'『Athalie』 (4) |
| 第20回 | Lecture et commentaire d'『Athalie』 (5) |
| 第21回 | Lecture et commentaire d'『Athalie』 (6) |
| 第22回 | Lecture et commentaire d'『Athalie』 (7) |
| 第23回 | Lecture et commentaire d'『Athalie』 (8) |
| 第24回 | Lecture et commentaire d'『Athalie』 (9) |
| 第25回 | Lecture et commentaire d'『Athalie』 (10) |
| 第26回 | Conclusion générale |

授業計画コメント

Ce plan doit être envisagé avec souplesse : il pourra arriver, en fonction des besoins, que nous passions plus de temps que prévu sur un texte. Tout dépendra (aussi) de la bonne volonté des étudiants.

授業方法

Je fournirais des explications chaque fois que le besoin s'en fera sentir... Et même au-delà des besoins exprimés, je le crains !

使用言語

日本語・英語

準備学習(予習・復習)

準備学習(予習・復習)

La préparation du texte demandera l'usage d'un dictionnaire spécialisé : celui de Huguet, pour les textes du XVIème siècle, celui de Furetière pour le XVIIème siècle.

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
授業での発表内容、参加度、グループ作業の成果	60 %	
その他(備考欄を参照)	40 %	Traductions proposées

成績評価コメント

Le but ultime de nos séances étant d'établir une traduction de ces textes difficiles, les propositions des étudiants seront non seulement bien accueillies mais impérativement souhaitées !

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

Il va de soi que j'aiderai, dans la mesure de mes moyens, les étudiants à surmonter les difficultés qu'ils rencontrent. Un cours (en principe) est un dialogue constant.

教科書

Les Juives: Folio Théâtre, Robert Garnier, Gallimard, 1, 2007, 978-2070304967

Esther: Folio Théâtre, Jean Racine, Gallimard, 1, 2007

Athalie: Univers des Lettres, Jean Racine, Bordas, 1, 978-2040112592

教科書コメント

N'importe quelle autre édition me convient, pourvu qu'elle contienne le texte intégral.

履修上の注意

履修者数制限あり。
第1回の授業に必ず出席のこと。